



大阪湾に浮かぶ関西国際空港を眺め、 寺社と伝統が息づく街並みを散策する。

大阪府の南西部、大阪湾に臨む貝塚市は、平安時代からその美しさが知られた海岸「二色の浜」や天然記念物のブナ林などの自然に恵まれています。また名刹・古刹も多く、古い街並みや伝統工芸品とともに歴史の趣を漂わせています。1964年東京オリンピックで日本中を沸かせた“東洋の魔女”ゆかりの貝塚市。現在は、人が集い、心豊かに英知を育て文化を発信する街づくり、若者が住みたくなる街づくりをめざしています。



取材・写真協力：貝塚市観光協会、自然遊学館

① 二色の浜

美しい白砂青松の砂浜の白色と、松林の青色から「二色の浜」の名が付いています。マリンレジャー、海水浴、潮干狩りで賑わい、晴れた日には「日本の夕日100選」にふさわしい絶景が眺められます。



② 水間寺 千本搦餅つき

天平年間(729~749年)に、僧の行基と16人の童子が観音様の出現を祝って餅をついたことが起源。毎年1月2・3日に行われ、歌に合わせてついた餅は厄除けとしてまかれます。



③ 自然遊学館

市内で発掘されたアンモナイトをモデルに建てられた施設内に、市内に生息する身近な昆虫や魚、化石などを展示。生き物について楽しく学ぶことができます。



④ 和泉櫛(つけ櫛)

11世紀発祥とされるつけ櫛の産地である貝塚市は、今も日本一の生産量を誇ります。地肌によさしく、通日も良く、使い込むほどに馴染む質感が特長です。



⑤ 貝塚市イメージキャラクター つげさん

名産品のつけ櫛をモチーフにつくられたキャラクター。市内のイベントに登場するほか、ポロシャツやメロンパン、お菓子などオリジナルグッズが人気を集めています。